

取組み報告(事例紹介)

法人名：株式会社チャット・ケアすずらん

事業所名：チャット・ケアすずらん訪問介護事業所

取組みテーマ

紙の「私有車両使用届け」のデジタル化

1. 事業所の概要

法人名:株式会社チャット・ケアすずらん

事業所名:チャット・ケアすずらん訪問介護事業所

所在地:雲南市

施設種別:訪問介護事業所

定員:なし

職員数:21人

2. プロジェクト体制

名称:アプリプロジェクト

	メンバー役職名	所属	プロジェクトでの役割
1	代表取締役	チャット・ケアすずらん訪問介護事業所	委員長
2	管理者	チャット・ケアすずらん訪問介護事業所	副委員長
3	事務長	チャット・ケアすずらん訪問介護事業所	
4	主任	チャット・ケアすずらん訪問介護事業所	
5	事務職員	チャット・ケアすずらん訪問介護事業所	書記

生産性向上委員会の設置: あり

今後の体制: 今回の PT 体制で継続

3.取組みの目的

<p>弊社は、創業して間もなく4年が経過する歴史の浅い事業所です。</p> <p>しかしながら、介護保険制度ができた当時から介護事業を行っていた事業所から、「事業譲渡」の形で、ヘルパーの皆さん及び社員の皆さんの全員を引継ぎ、事業をスタートしており、ヘルパーの皆さん及び社員の皆さんは十分な経験を積んでおります。</p> <p>また、弊社の特徴として次の2つがあります。</p> <p>① 会社の事業を訪問介護事業に特化していること</p> <p>② 訪問介護事業でありながら、会社所有の車を1台も保有していないこと</p> <p>このことから、訪問介護の移動手段は、全て訪問介護員の自家用車とし、自家用車両使用の費用弁償については「私有車両利用実施要項」に基づき行っています。</p> <p>この要項により費用弁償を行う上で、最も重要なことは、移動した正確な「距離の把握」であります。</p> <p>現行の紙ベースによる「距離の把握」の集計には、確認作業等に相当な時間を要しています。</p> <p>そこで、本年度にタブレットを導入する予定であったことから、今回のモデル事業において、タブレットの有効活用及び「正確な移動距離の把握」を目的として、専門家の支援をいただき、業務改善の取り組みを行うこととしました。</p>

4.目的達成に向けた取組

	取組項目	内 容
1	課題の見える化	Google フォーム、生産性向上くんによる職員アンケートの実施
2	課題の絞り込み	「私有車両使用届」の現状把握とシステム化 紙ベースの「私有車両使用届」の内容チェック及び移動距離の集計に相当な時間を要していることから、「私有車両使用届」のシステム化を図る
3	「私有車両使用届」の現状分析	○「移動した距離」の算出 ～勤務の直行・直帰ならでの問題点～ ・出発時メータ、帰着時メータの妥当性 ・事務所に立ち寄った時 ・天候や工事にとまなう別ルートの利用 ・勤務外に使用した距離 ○「届出内容」のチェック ・記入漏れはないか

		<ul style="list-style-type: none"> ・勤務表の消込 ○検討すべき課題 <ul style="list-style-type: none"> ・距離の算出方法の明確化 ・勤務の直行・直帰と寄り道
4	アプリの内容の検討	正確な「距離の把握」という課題の解決につながるアプリであるかどうかの検討
5	アプリの様式の検討	様式の内容に検討
6	アプリの試験運用	アプリをインストールした3台のタブレットを利用して、試験運用をおこなった。

(1) 専門家の伴走支援

期日(年月日)	実施内容	提案・助言のポイント
令和7年11月27日	アンケートから見えた現場課題の確認と深堀	無理・無駄・ムラの詳細。
令和7年12月19日	モデル事業で取組むテーマ作り ○「私有車両使用届」のシステム化について	簡単に使えるアプリの紹介とテスト利用提案。
令和8年 1月 7日	アプリ内容の検討	必要なデータと入力すべき情報の整理。
令和8年 1月19日	様式の検討	使いやすいアプリにするための自主相談。
令和8年 1月29日	集計用アプリの検討	集計例の検討と利用方法の検討。
令和8年 2月 2日	集計用アプリの運用	利用するための事前研修。
令和8年 2月20日	アプリの試験運用の検証	テスト運用してみたの感想と改善要素の整理。

(2) 事業所の取組

時期(年月日)	取り組んだ内容
令和7年11月27日 ～令和8年2月20日	現場の課題抽出 課題解決に向けたテクノロジー利用の検討 アプリの試験運用

	検証項目	取組み前と後の変化	測定方法	頻度
1	ヘルパーの移動距離記録 時間	【定量】 取組(導入)前: 10分/日 取組(導入)後: 3分/日 【定性】	車の距離メーター	作業毎

		手計算の廃止、移動毎に記録が可能になった		
2	事務処理の短縮 手作業による転記作業の 時間短縮	【定量】転記作業及び計算 取組み（導入）前：60分 取組み（導入）後：3分 【定性】 作業手順の単純化・転記による記載ミス減少	Excel での作業時間と kintone での 作業時間比較	

5.効果検証

	業務改善した項目	取組み前の状況（Before）	取組み後の変化（After）
1	使用届の（紙）の整理	5分	—
2	走行距離の給与データへの入力	15分	—
3	入力後の読み合わせ	10分	—
4	エクセルデータへの変換、並び替え	—	5分
	合計	30分	5分

6.継続課題

	テーマ	内容
1	タブレットの入力	・直行、直帰ならでの課題の整理— 例えば、スタート地点の捉え方等の整理を行う。
2	アプリで作成する帳票	・帳票に、確認のチェック欄の設置。 ・職員別一覧表の作成
3	予定表との連携	・訪問予定との連携 訪問予定とアプリの連携を検討する。

7.モデル事業所の感想

弊社の5年先、10年先を見据え、「生産性向上」の重要性を認識し、「介護現場革新サポートセンターしまね」における「令和7年度 介護生産性に取り組むモデル事業所」に参加申込を行い、「専門家派遣事業」に取り組んできた。

偶然にも、本年は「島根県介護テクノロジー定着支援事業」を活用して、ワイズマンの「すぐろく」ソフトとタブレットを導入し、「特定事業所加算」の取得を目指していたこともあり、生産性向上の取り組みもタブレットをツールとした。

なお、「専門家派遣事業」では当初「ICT活用による記録業務の短縮」を考えていたが、課題の絞り込みの段階で「アプリを活用した「私有車両使用届け」業務の効率化」に変更した。

「専門家派遣事業」の取り組みの中で一番感じたのは、当たり前、「人の労力」で行っていた業務の中にも、システム化が可能な業務も存在することが、改めて認識できたことである。

また、生産性向上の取組を進めていくにつれ、職員同士、タブレットの使い方を教えあう姿が見られたりと、職場の雰囲気向上に繋がったと思う。

そして、最後に、一番良かったのは、スタッフの全員が、日ごろから業務改善について、不断に考えていることが分かったことである。

最後になりましたが、ご指導をいただきました多々納 代表者様に心から厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

8.専門家のコメント

この度、チャットケア様のご支援をさせていただきました。

事前に、今回同事業所ではワイズマンの「すぐろく」を導入するという計画をお聞きしていました。本事業でも、すぐろくの利用を始める支援も考えましたが、そちらについてはITベンダー様により進めて頂けるものと判断しました。

今回の事業として「無駄・無理・ムラ」を事前に抽出されていたこともあり、これらの改善にテクノロジー利用をご提案することとしました。

いきなりレベルの高い提案だったこともあり、かなり戸惑いがあったかと思いますが、代表始め、ヘルパーの方たちもご協力いただき、積極的にご参加いただきました。

今回の取組は、紙1枚をデジタル入力し、集計するものではありますが、メリットとデメリットを体感して頂けたと思います。

通常業務が多忙の中、プロジェクトにご参加いただきありがとうございました。お疲れ様でした。

【イズコムIT経営相談所 所長 多々納 健一】



